

市民講演

難病(ALS)が自分に教えてくれたこと

9月28日(土)午前10時から亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホールを会場に、「難病(ALS)が自分に教えてくれたこと—ALS患者としての生き方—」と題して市民向け講演会を開催いたします。



2017年に難病ALS(筋萎縮性側索硬化症)を発症しながらも、在宅医療を受けつつ鴨川未来倶楽部NEXT代表として、バリアフリー、ユニバーサル社会の実現に向けて精力的に活動されている久根崎克美氏を講師に迎え、難病ALSと診断されてから感じたこと、これからの生き方、地域社会とのつながりについてお話いただきます。ぜひご参加ください。(定員50名、参加費無料)

【申込方法】：電話またはFAXにてお申込みください
亀田総合病院 安房地域難病相談支援センター
TEL：04-7099-1223 FAX：04-7099-1121

がん就労支援講演会

がんになっても就労継続できる方法を一緒に考えてみませんか？ 10月19日(土)午後1時半～4時、亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホールを会場に、恒例の「がん就労支援講演会」を開催いたします。(定員50名、参加費無料)



「がんと診断されても 働き続けるために」をテーマに、第1部では抗がん剤治療の副作用と上手な付き合い方について、当院薬剤部の塚田麻実薬剤師がお話いたします。第2部では特定社会保険労務士の宮沢佳子先生より、「がんになっても自分らしく働き続ける」という演題で、お金や法律についてご紹介いただきます。興味をお持ちの方はぜひご参加ください。

当日参加も歓迎いたしますが、人数把握のため事前申込にご協力をお願いいたします。参加を希望される方は10月15日(火)までに氏名と連絡先を添えて下記までお申し込みください。

【申込方法】：電話またはFAXにてお申込みください
亀田総合病院 がん拠点病院推進センター
(担当：黒川・大橋・唐鎌)
TEL：04-7099-1230 / FAX：04-7099-1231

ピア・サポーターズサロンちば

9月27日(金)午前10時～午後3時、亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホールを会場に、がん患者さまとご家族のための「ピア・サポーターズサロンちば」を開催いたします。



がん経験者であるピア・サポーターが、がん患者さまやご家族の悩みを聞いたり、体験をお話する場です。どうぞ気軽にご来場ください。

※ピア・サポーターは医師やカウンセラー等ではありませんので、医学的な相談や専門的なカウンセリングは行いません。

コンサート情報

10月5日(土)午後3時から亀田総合病院Kタワー1階ロビーにて、「ソプラノ&ピアノデュオ concert」を開催いたします。

幅広いレパートリーを持つ声楽家の竹下和枝氏(ソプラノ)、教会音楽のほか伴奏や室内楽の分野で活躍する泉稔子氏(ピアノ)、教職の傍ら鴨川少年少女合唱団の専属ピアニストなどを務める鈴木信太郎氏(ピアノ)によるコンサートで、「主よ、人の望みの喜びよ」(J.Sバッハ)、「軍隊行進曲」(シューベルト)、歌劇ジャンニスキッキより「私のお父さん」(プッチーニ)など、クラシックの名曲を中心に演奏いただきます。

市民フォーラム テーマ:「インプラントのホント」

10月12日(土)午後1時～3時半、亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホールを会場に、デンタルインプラント(人工歯根)をテーマに市民フォーラムを開催いたします。(定員80名、参加費無料)



当院歯科口腔外科の松田博之歯科医師が、「インプラントのホント」と題し、歯を失った際の治療選択肢として注目される「デンタルインプラント」の正しい適応と治療法をご紹介します。参加を希望される方は10月5日(土)までに氏名と連絡先を添えて下記までお申し込みください。

【申込方法】電話またはFAXにてお申込みください
亀田総合病院 カスタマーリレーション室
TEL：04-7099-1230 FAX：04-7099-1231



「子宮頸がん HPV ワクチン」

当院では今年の5月から、いわゆる“子宮頸がんワクチン” (HPV: Human Papilloma Virus vaccine) の新しいタイプのもの (Gardasil9) の接種を開始しています。今回は子宮頸がん HPV ワクチンについてご紹介します。

子宮頸がんとは

子宮がんには、子宮の入り口付近から発生する「子宮頸がん」と、子宮の奥から発生する「子宮体がん」があります。それぞれ発生する場所だけでなく、原因や特徴も異なる別の病気です。

日本では子宮頸がん年に年間約1万人が罹患し、この病気では約2,900人が命を落としています。罹患数・死亡者数とも近年増加傾向にあり、特に20歳～40歳代の働き盛りの女性や子育て世代の女性の罹患増加が著しいものとなっています。

子宮頸がんの原因

子宮頸がんの多くはヒトパピローマウイルス (以下 HPV) という、ごくありふれたウイルスの持続感染が原因となることがわかっています。HPVの主な感染経路は性的接触です。性交渉の経験がある女性のうち50%～80%は、生涯で一度はHPVの感染機会があると推計されています。しかしHPVに感染しても、多くの人は無症状のまま一過性の感染に終わり、病気を発症することはありません。HPVが持続的に長く感染し続けるごく一部の女性において、前がん病変を経て、数年程度かかって子宮頸がんが発生することがあります。

HPV関連がんはワクチンで予防を

HPVには何十種類ものタイプがあり、そのうち子宮頸がんを起こしやすいタイプが複数あることが知られています。いわゆる“子宮頸がんワクチン”といっているワクチンは実はこの子宮頸がんの原因になりやすいタイプのHPVに対するワクチンなのです。

従来のHPVワクチンは子宮頸がんを起こす性質を持つ

HPVのうち2つのタイプを対象にしており、これで子宮頸がんの60%をカバーすることができると考えられています。新しいタイプのワクチン「Gardasil9」は9つのタイプのHPVに対応しており、そのうち子宮頸がんを起こす性質を持つものを7つ入れてあるので (残りの2つは男性、女性ともに陰部にイボを作る尖圭コンジローマという病気を起こす性質のものを対象としています) 子宮頸がんの90%をカバーすることができるようになりました。このワクチンの効果により、将来子宮頸がんはほとんどなくなり、“希少がん” (ほとんど見られない珍しいがん) の一つとなるだろうと考えられています。

なお、ワクチンはすでにHPVに感染している細胞からHPVを排除する効果は認められません。そのため、初めての性交渉を経験する前に接種することが最も有効とされています。

HPV ワクチンをめぐる日本の現状

海外ではすでにこの新しいタイプの「Gardasil9」に置き換わっているのですが、日本では、以前のタイプのワクチンの副作用で体調が悪くなったと訴えて訴訟が起きており、(科学的にはワクチンとの因果関係は否定されています) その問題が解決していないため新しいワクチンの導入が行われていません。

当院での対応

当院感染症科では、厚生省にワクチン輸入の許可申請をして、輸入ワクチンとして「Gardasil9」を取り寄せ、今年5月から接種を開始しています。ただし、輸入ワクチンは万が一の健康被害などに際して、公的な補償制度が利用できません。効果や安全性について事前に説明してご理解・ご納得を得た上で接種を行っています。

このワクチンは、オーストラリアを始め米国などでは男性への接種も開始されており、当院でも男性への接種も行なっています。亀田クリニック (感染症・予防接種・旅行外来) のほか、京橋クリニック (感染症内科 トラベル・ワクチン外来) で接種が可能です。なお、11歳から14歳までは2回接種、15歳以上は3回接種が必要です。費用は接種1回あたり35,100円 (税込) となります。(※初診料・再診料などの費用が別途かかります) 接種を希望される方は、まずは予約センターまでお電話ください。

参考資料：公益社団法人日本産婦人科学会ホームページ (<http://www.jsog.or.jp/>) 「子宮頸がん HPV ワクチンに関する正しい理解のために」

医師紹介

たかざわ しゅうぞう
高澤 修三 医師

- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言



- ①スポーツ医学科 (医長)
- ②外傷、スポーツ外傷
- ③ラグビー、マラソン
- ④私は、学生時代から様々な怪我を経験してきました。その経験を生かし、患者さまに寄り添える様に頑張ります



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>